

2024年度チャレンジ講座(第15回)を実施しました

1月29日(水曜日)、第15回チャレンジ講座を実施しました。今回は経済学部の大井尚司先生に「暮らしと地域を支えるひと・ものの移動を考える」と題して講義をしていただきました。

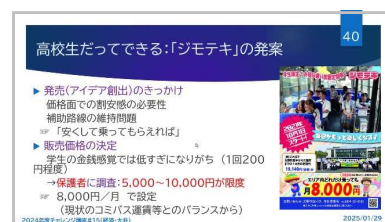


まずはじめに先生は、熊本地震(2016年)と西日本豪雨(2018年)について「みなさんの生活に影響があったことを思いだしてください」と問いかけました。高校生からは断水や崖崩れ、川の氾濫など、様々な事例が出されました。先生は、災害が発生すると道路や鉄道など交通に影響があり、それが私たちの生活に直結することを、事例をあげて説明してくださいました。例えば、西日本豪雨は大分から遠く離れた地域での災害で、関係なさそうに思えますが、鉄道網が寸断されたことにより輸送が滞り、発売予定日を過ぎてても雑誌が私たちのところまで届かないといった影響があったということです。



交通が止まるとひと・ものの移動ができなくなり、生活ができなくなることにつながります。先生は、過度なクルマ依存の危険性や、代替手段を確保することの重要性を説明し、「災害からの復旧や今後の防災のためにどうすべきか考えてみてください」とおっしゃいました。

また、「普段の生活や消費活動と交通のつながりを考えてみましょう」と問題提起されました。自家用車は便利ですが、都市にクルマのためのスペースを大きくとることが必要になります。また、公共交通の利用や近所のお店での買い物は、地域の経済を活性化させることにつながります。例として、豊後大野市で高校生が取り組んだバス利用促進の取り組み「ジモテキ」が紹介されました。



対象	対象	アプローチ	研究手法	一時的な評価
経済学	世界全体・企業・個人・家計・政府など様々な主体の行動	世の中全体	基本的には経済学の理論やそれをベースにした政策、歴史	どちらかといえば定量的なデータや数値を使う
経営学	企業(十それにかかわる主体)の行動	企業	経営学や社会学、心理学など(一時的な)理論的な方法が多い	定量的なデータや数値を使う

最後に、「経済学」と「経営学」の違いや、大分大学経済学部で学べる分野など、高校生にとって今後の進路選択に役立ちそうなお話もしていただきました。

今回のチャレンジ講座は21校321名の高校生がオンラインで参加しました。感想の一部を紹介します。

- 移動が私たちの生活にどれほど密接に関係しているのかを改めて感じ、非常に充実した1時間だった。
- 今まで考えたこともないお金の巡りを災害から関連づけて考えることができてよかった。経済学と経営学の違いがわからなかったのが本日知ることができたのでよかったです。
- 「暮らしと人の足、モノのつながりは重要であり、私たちに密接に関わる」ということが特に印象に残りました。「クルマ」依存の話聞き、私自身「クルマ」に依存していたなと感じたので、「クルマ」依存について、詳しく知りたいと思いました。世の中を良くするために、今、自分ができることを考えたいです。